

2019 12.1 上智大学

英語教育における 「アクティブ・ラーニング」の再考

田中茂範

PEN言語教育サービス

慶應義塾大学名誉教授

活動の中で英語を学ぶ

新しい指導要領の要諦

<<活動の中で英語を学ぶ>>

アクティブ・ラーニングが導きの糸

「アクティブ・ラーニング」 = 「主体的・対話的で深い学び」

グループ活動ー<主体的に参加 対話 深い学び>(協働学習)

評価の観点にアクティブ・ラーニング

- 知識及び技能

- 思考力・判断力・表現力

注目すべき観点：
自律学習

- 主体的に学習に取り組む態度

Autonomous Learner
自ら選択し行動する学習者

教師側に求められるもの

生徒たちの自律学習を導くための授業を、教師は行わなければならない。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)

『学習指導要領』

「アクティブ・ラーニング」

「教えるというパラダイム」→

「学ぶ、成長するというパラダイム」

溝上慎一（2014）『アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換』

東信堂

Active Learning という用語

Bonwell, C, & Eison, J. (1991).

***Active Learning:
Creating Excitement in the Classroom.***

The ASHE (Association for the Study of Higher Education) Report.

高等教育の変革⇒日本では小中高の教育改革の旗印

「アクティブ・ラーニング」の意図

Passive Learning → Active learning

教師中心から学習者中心にシフト


受動的な学習者から主体的な学習者にシフト

講義形式からワークショップ形式にシフト

受ける授業から、行動する授業にシフト

知識移転型から発見型・仮説検証型にシフト

主体的に関わる学習

- 「させられる学習」ではなく「自分でする学習」
 - 学んだ知識だけでなく、**学ぶ力**に注目
学習意欲・好奇心、持続力、計画力、集中力
 - 産物と同様にプロセスが重要
- 

アクティブ・ラーニングの捉えどころのなさ

わかりやすい概念でありながら、いざ実践しようとする^とと捉えどころがない？
どういう学習をアクティブ・ラーニングと呼ぶのか？

- 生徒が懸命に漢字トレーニングに取り組む
- 生徒が理科実験室である実験に夢中になっている
- A教師の授業はグループワークを中心に進めている
- 生徒が懸命に英語の音読をしている

グループ学習、体験学習がアクティブ・ラーニング？

「グループ学習」は古くからあるコトバ

用語解説

【アクティブ・ラーニング】

「伝統的な教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学ぶことによって、後で学んだ情報を思い出しやすい、あるいは異なる文脈でもその情報を使いこなしやすいという理由から用いられる教授法。発見学習、問題解決学習、経験学習、調査学習などが含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどを行うことでも取り入れられる」

（文部科学省「用語解説」）

アクティブ・ラーニングは「方法」か？

アクティブな活動が アクティブな学びを保証しない

観察者の視点から見ればアクティブ(グループワークをする、実験をする、討論する、発表する、ロールプレイをするなど)だが、何を学んでいるかわからないということが起こる。



深い学びは **learning by doing**の実践の中で起こるが

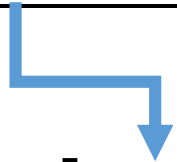
活動(doing)が深い学びを保証しない

アクティブ・ラーニングの本質

実践と反省(**doing & reflection**) (Bonwell & Eison, 1991)



- doing: 生徒が自分ごととして、積極的に学習課題に取り組む
- reflection(反省的見地からの思考)が深い学びを促す



inquiry(探究) (John Dewey: active learningの祖)

アクティブ・ラーニングが生徒の中起こった 結果としてのアウトカム

3つの評価観点からみた成果：英語の場合

評価観点

- 深い学び(思考力、分析力、関連化力など) ← **主体的に学ぶ態度**
- 表現する力(発表力、討論力、他者理解力など) ← **思考力・表現力**
- 学習項目を学び、使えるようになる(運用力) ← **知識技能**

これを実現するには、活動の狙いが考慮されなければならない！
どういった活動すれば、これこれしかじかのことが実現できるのか？

英語教育における活動の狙い(objectives)

観照の知

- ① **Awareness-raising**(気づき) 「気づき」の理論
- ② **Networking**(関連化) 「関連化」の理論

実践の知

- ③ **Comprehension**(理解) 「理解」の理論
- ④ **Production**(産出) 「産出」の理論
- ⑤ **Automatization**(自動化) 「自動化」の理論

「評価の観点」と「活動の狙い」関係

- **深い学び(思考力、分析力、関連化力など)**

👉 awareness-raising / networkingのための活動

- **表現する力(発表、討論、他者理解など)**

👉 production / comprehensionのための活動

- **学習項目を学び、使えるようにする**

👉 automatizationのための活動

活動がアクティブ・ラーニングを生み出す

Fin

- アクティブ・ラーニングは生徒が創り出すものであって、メソッド(方法論)ではない。
- グループ活動を行うことが直ちにアクティブ・ラーニングではない。
- リフレクション (reflection) とインクワイアリ (inquiry) が深い学びを可能にする。
- アクティブ・ラーニングは所与ではなく、結果である。
- 活動がアクティブ・ラーニングの誘因である⇒活動に狙いを持たなければならない。